

# 容器包装リサイクル制度を取り巻く現状

- 1 ごみ及び容器包装廃棄物の排出状況
- 2 分別収集の実績
- 3 容器包装廃棄物の再商品化
- 4 特定事業者に関する状況
- 5 改正容器包装リサイクル法の各種取組状況
- 6 その他関連情報

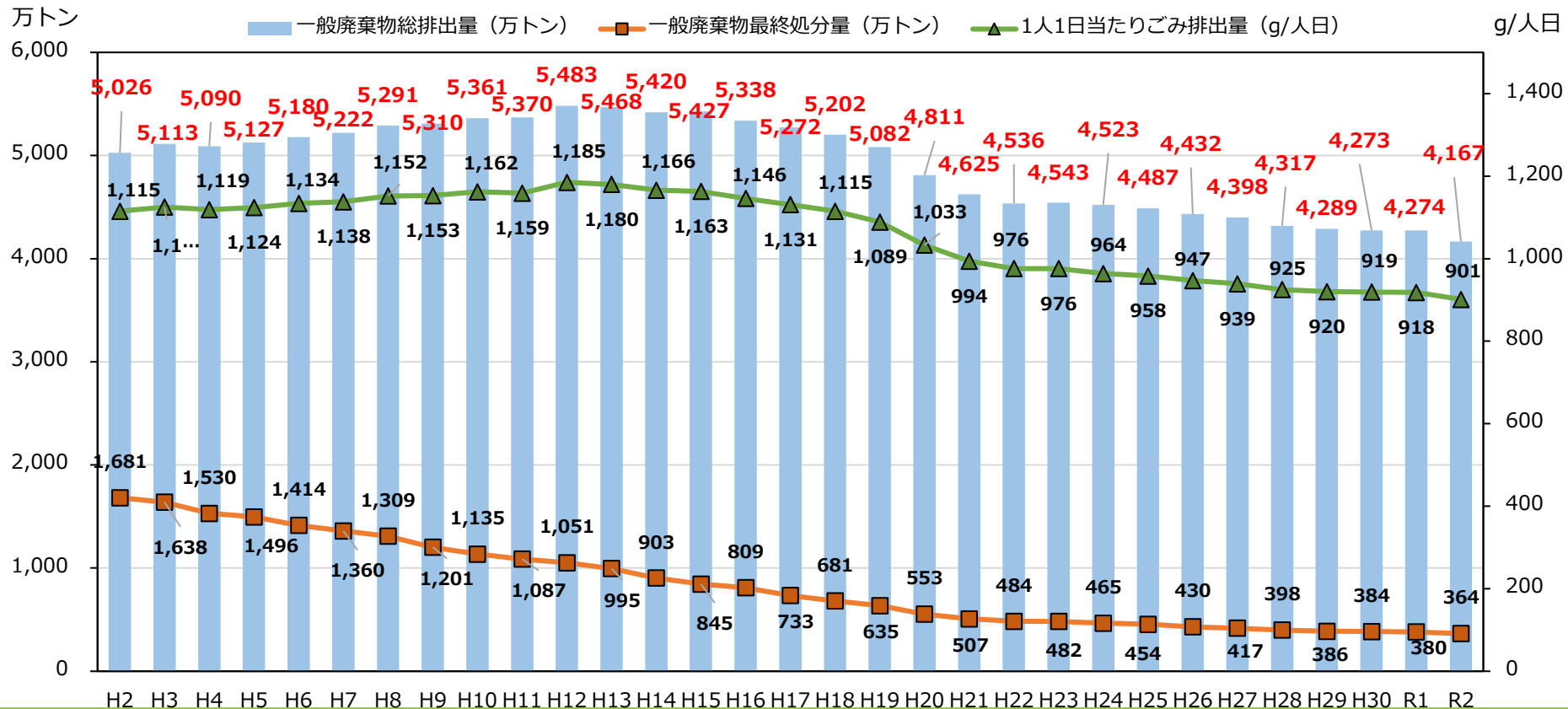
# 1 ごみ及び容器包装廃棄物の排出状況

## 1-1 一般廃棄物総排出量・一般廃棄物最終処分量・1人1日当たりごみ排出量

我が国のごみの排出量は、平成12年度をピークに減少しており、令和2年度においては、4,167万トンとなっている。

1人1日当たりごみ排出量は、直近は901gと、法制定時（平成7年。1,138g）から約21%、ピーク時（平成12年。1,185g）から約24%減少している。

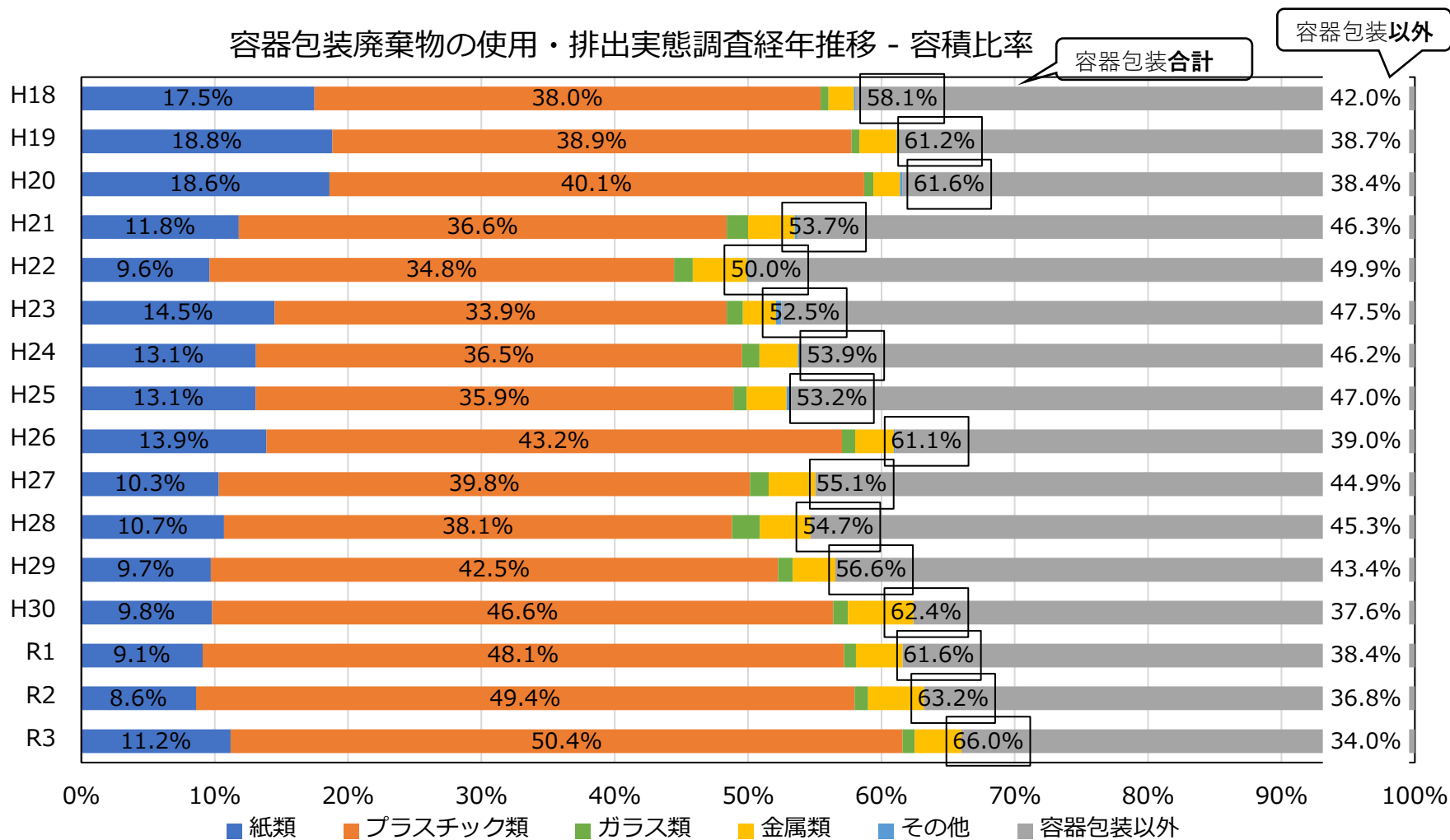
一般廃棄物最終処分量は、法制定以前より減少を続けており、令和2年度は364万トンであった。



出典：環境省「日本の廃棄物処理」

## 1-2 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合(容積比)

家庭ごみ中の容器包装廃棄物の容積比は増減を繰り返していたが、平成28年度から増加傾向を示している。令和2年度以降は、世帯人口の少数化・高齢化に伴い、少量規格商品の提供が増加したこと、また新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。



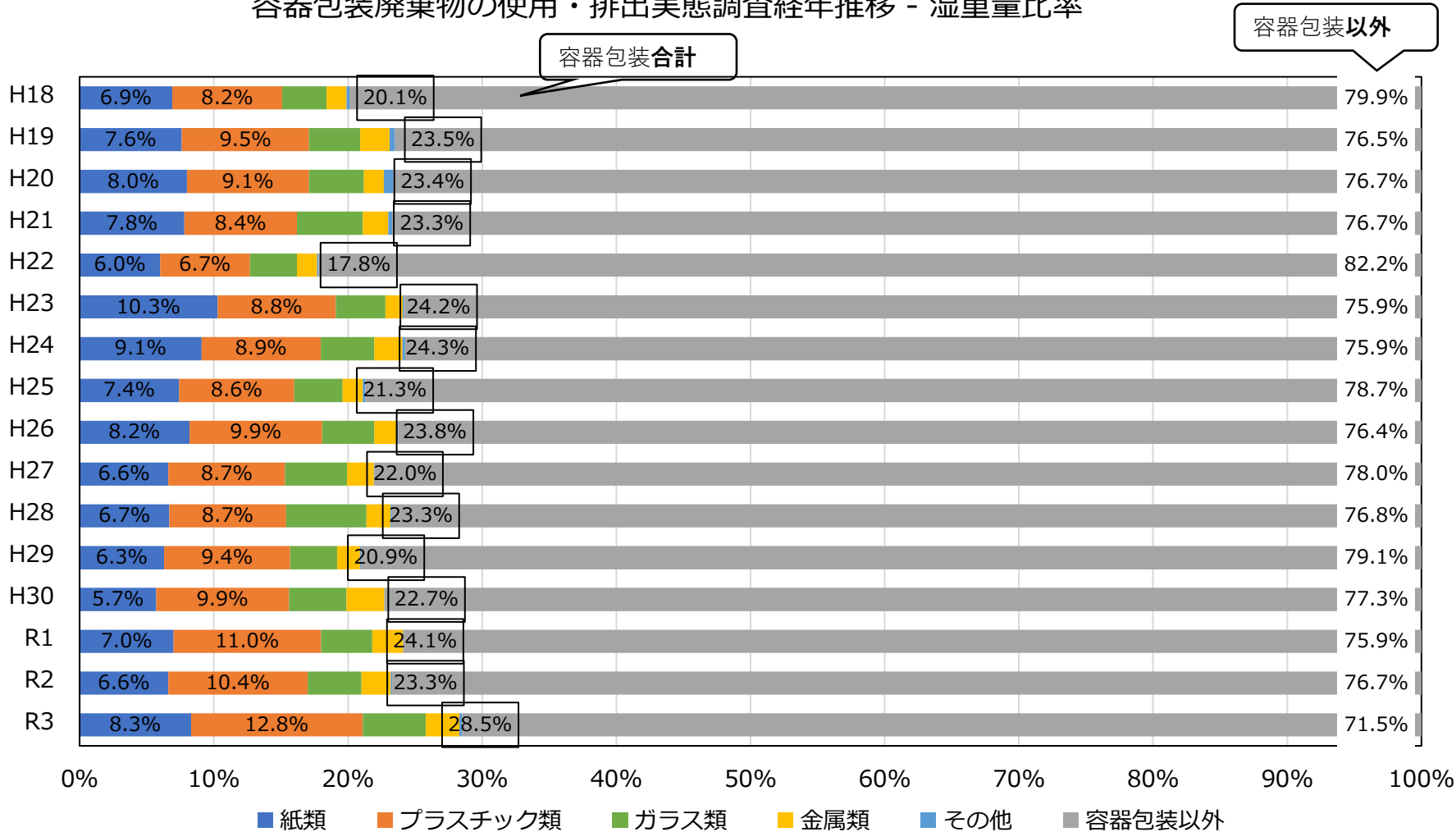
※四捨五入のため合計値が合わないことがある。

出典:環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査」

## 1-2 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合(湿重量比)

家庭ごみ中の容器包装廃棄物の湿重量比は20%程度で推移している。組成別ではプラスチック類及び紙類が最も多く、特にプラスチック類は近年増加傾向にある。

容器包装廃棄物の使用・排出実態調査経年推移 - 湿重量比率

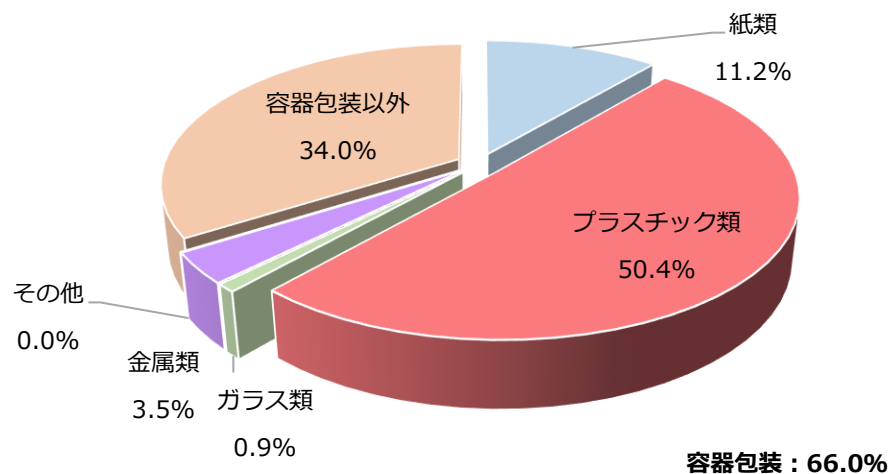


※四捨五入のため合計値が合わないことがある。

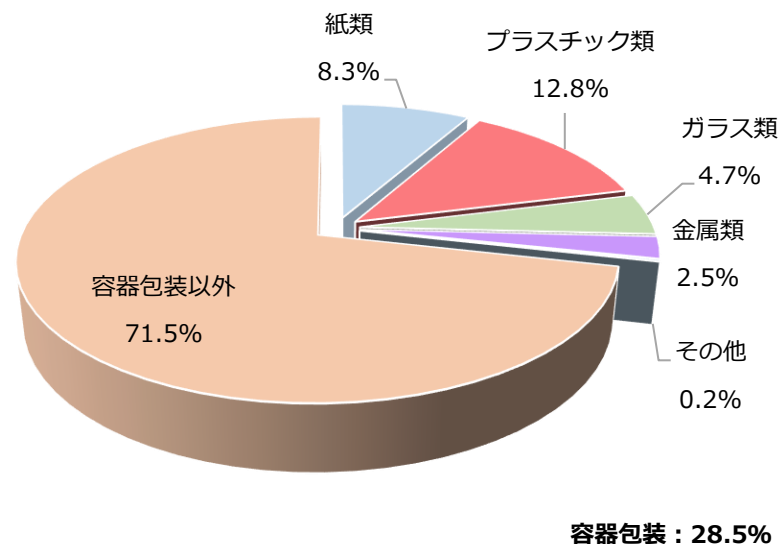
## 1-2 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合(令和3年度)

家庭ごみ中の容器包装廃棄物が占める割合は、令和3年度においては、容積比で約66%、湿重量比で約28.5%となっている。プラスチック類が容積の約半分を占めている。

### (1)容積比



### (2)湿重量比

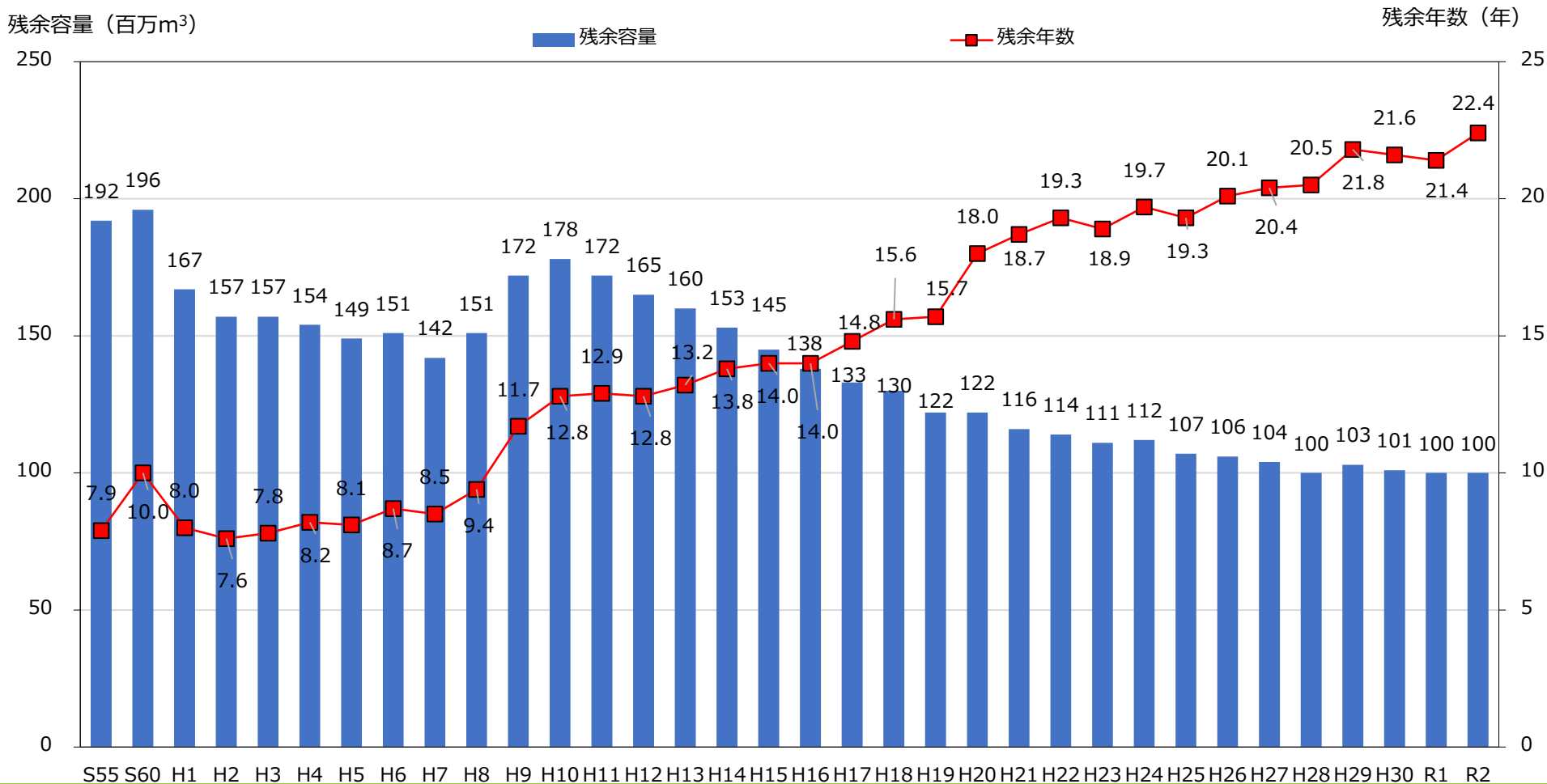


※四捨五入のため合計値が合わないことがある。

# 1-3 一般廃棄物最終処分場の状況

一般廃棄物最終処分場の残余容量は減少傾向であったが、平成28年度からほぼ横ばいで推移している。前回法改正時（平成18年）に130百万立方メートルであったが、令和2年度には100百万立方メートルである。

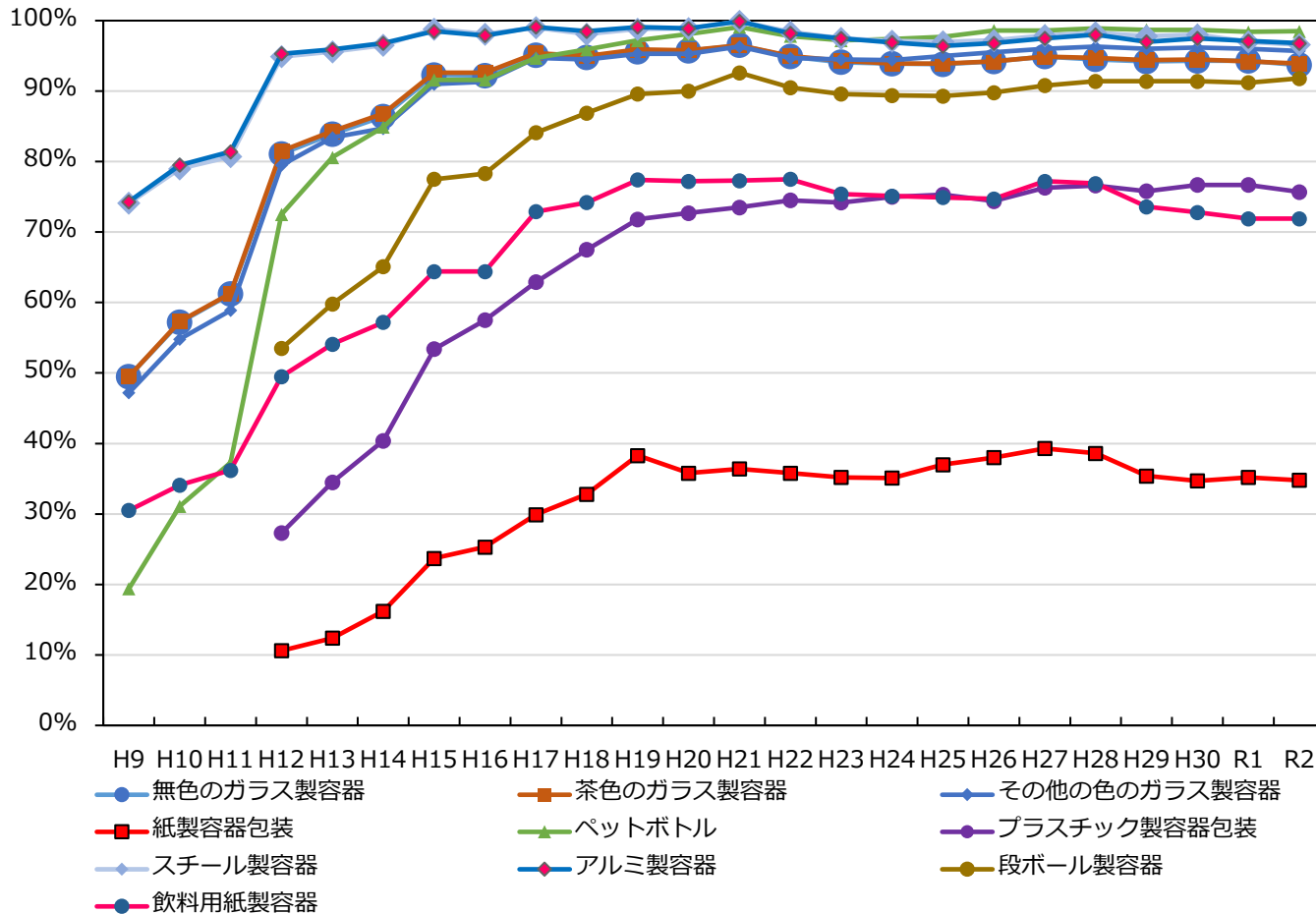
最終処分場の残余年数は、前回法改正時（平成18年）に15.6年であったが、令和2年度には22.4年に増加した。



## 2 分別収集の実績

### 2-1 全市町村に対する分別収集実施市町村の割合の推移

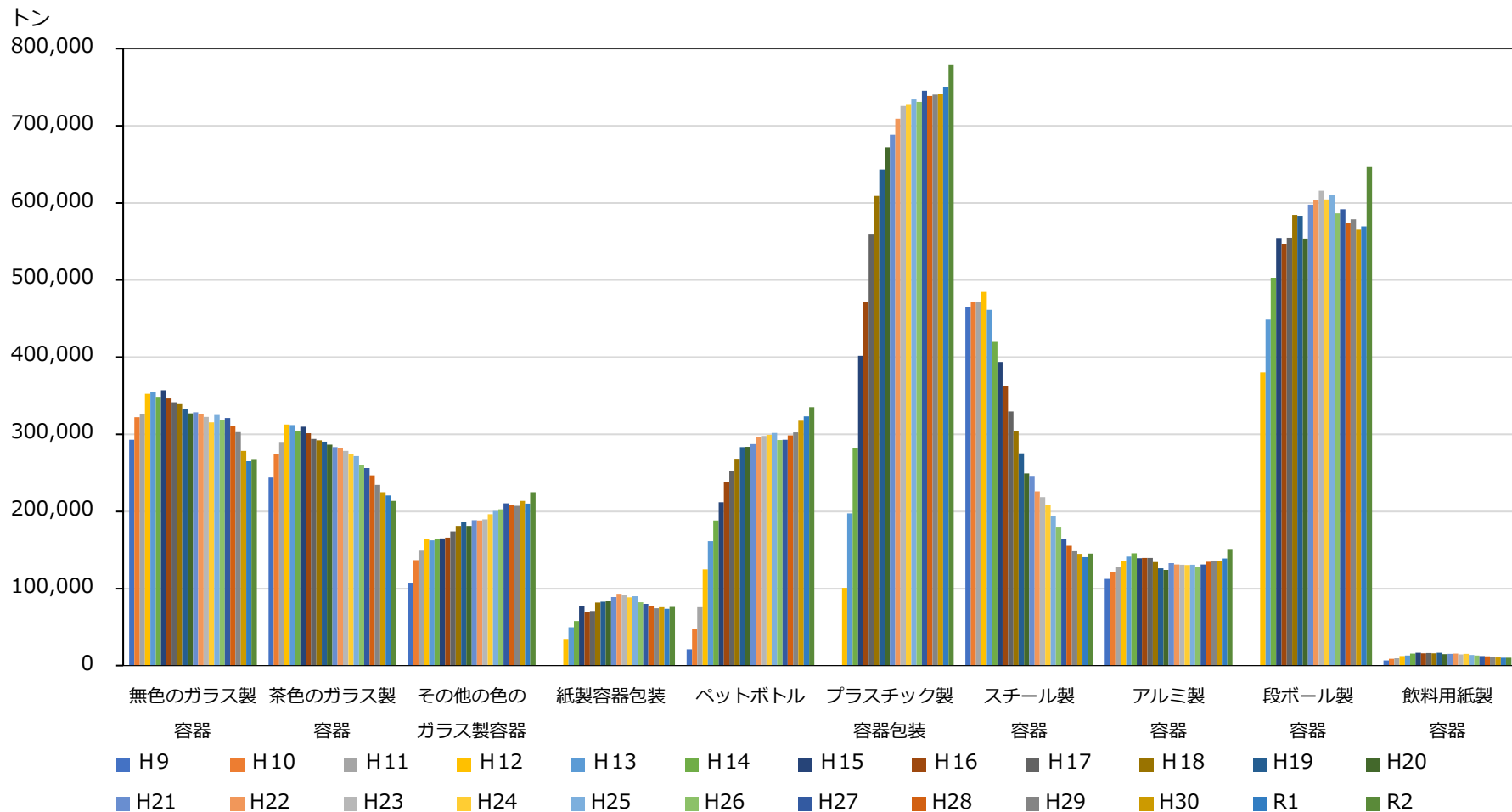
分別収集実施市町村の割合はガラス製容器、ペットボトル、スチール缶、アルミ缶、段ボールについては9割を超えているが、プラスチック製容器包装や飲料用紙製容器は7割程度、紙製容器包装は3割程度と低い割合で推移している。



品目	R2年度実施割合(%)
無色のガラス製容器	93.7%
茶色のガラス製容器	93.9%
その他のガラス製容器	95.7%
紙製容器包装	34.8%
ペットボトル	98.5%
プラスチック製容器包装	75.7%
(うち白色トレイ)	23.8%
スチール製容器	96.6%
アルミ製容器	96.8%
段ボール製容器	91.8%
飲料用紙製容器	71.9%

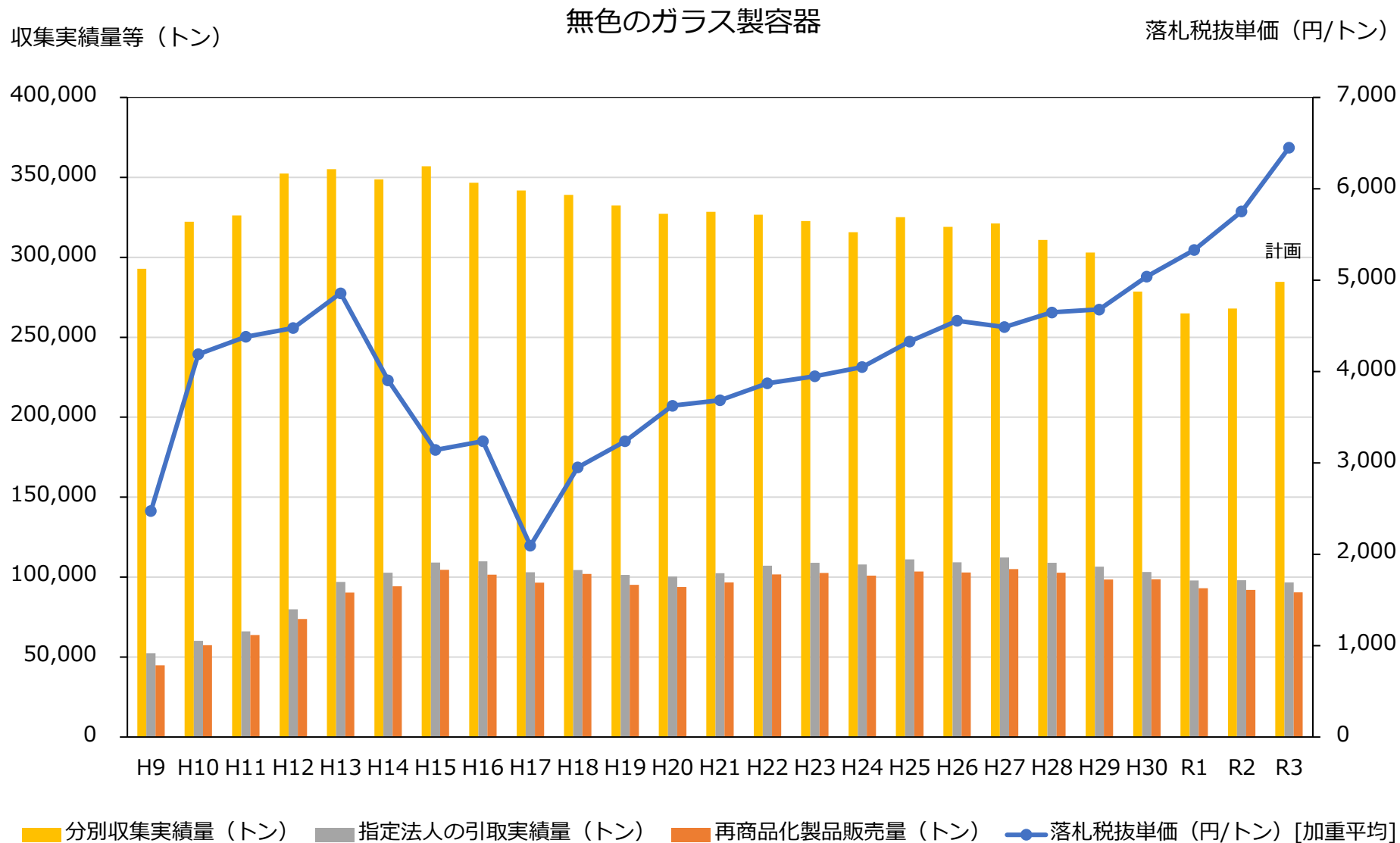
## 2-2 年度別分別収集実績量

無色及び茶色のガラス製容器、スチール製容器の分別収集量は出荷量に伴い減少傾向にある。その他の色のガラス製容器、ペットボトル、プラスチック製容器包装及び段ボール製容器の分別収集量は近年増加傾向にあり、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響等により急増した。





## 2-3 素材別 収集実績量、引取実績量、再商品化製品販売量、落札単価の推移

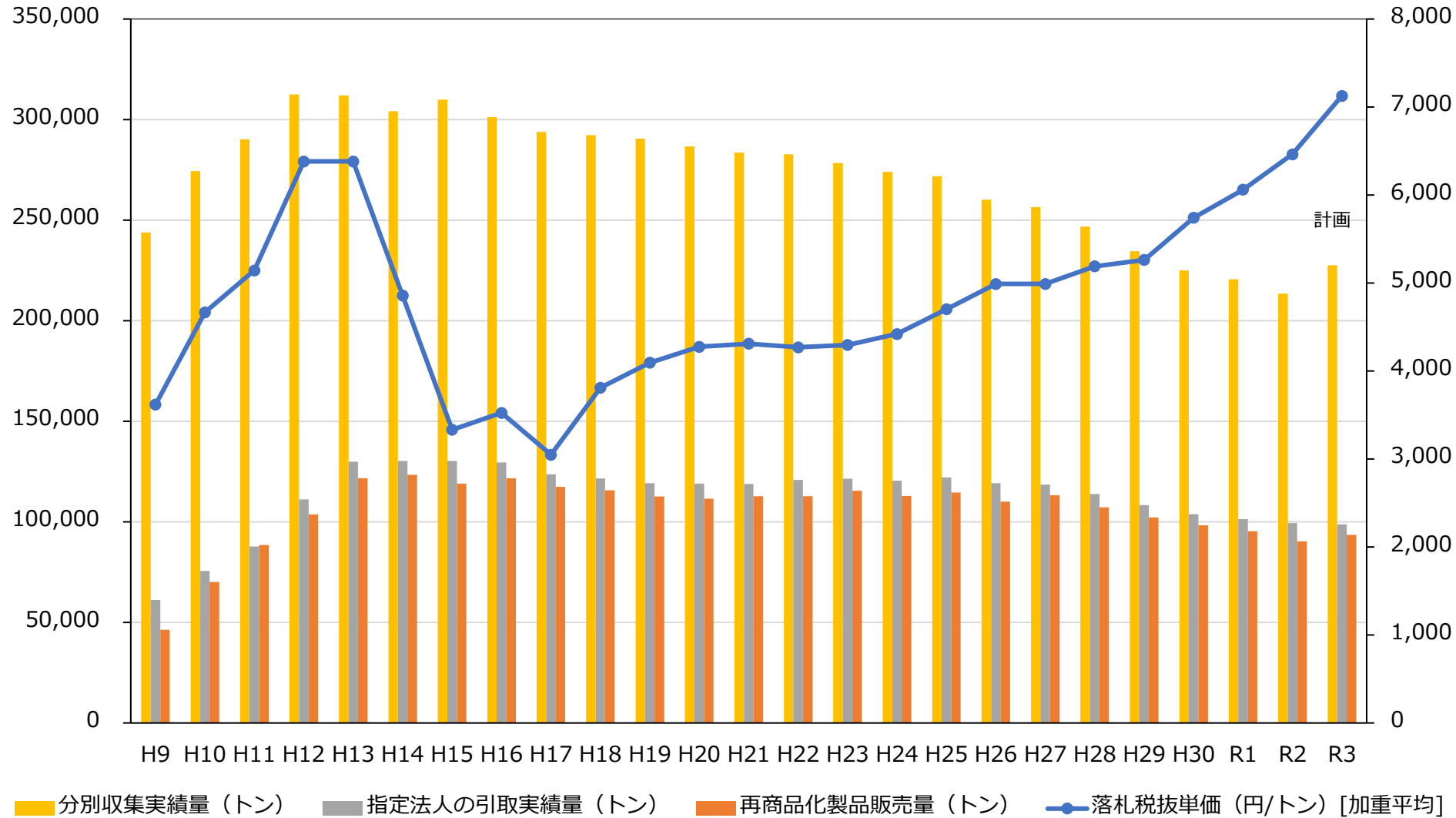


※R3年度の分別収集実績量は計画量。

# 茶色のガラス製容器

収集実績量等 (トン)

落札税抜単価 (円/トン)

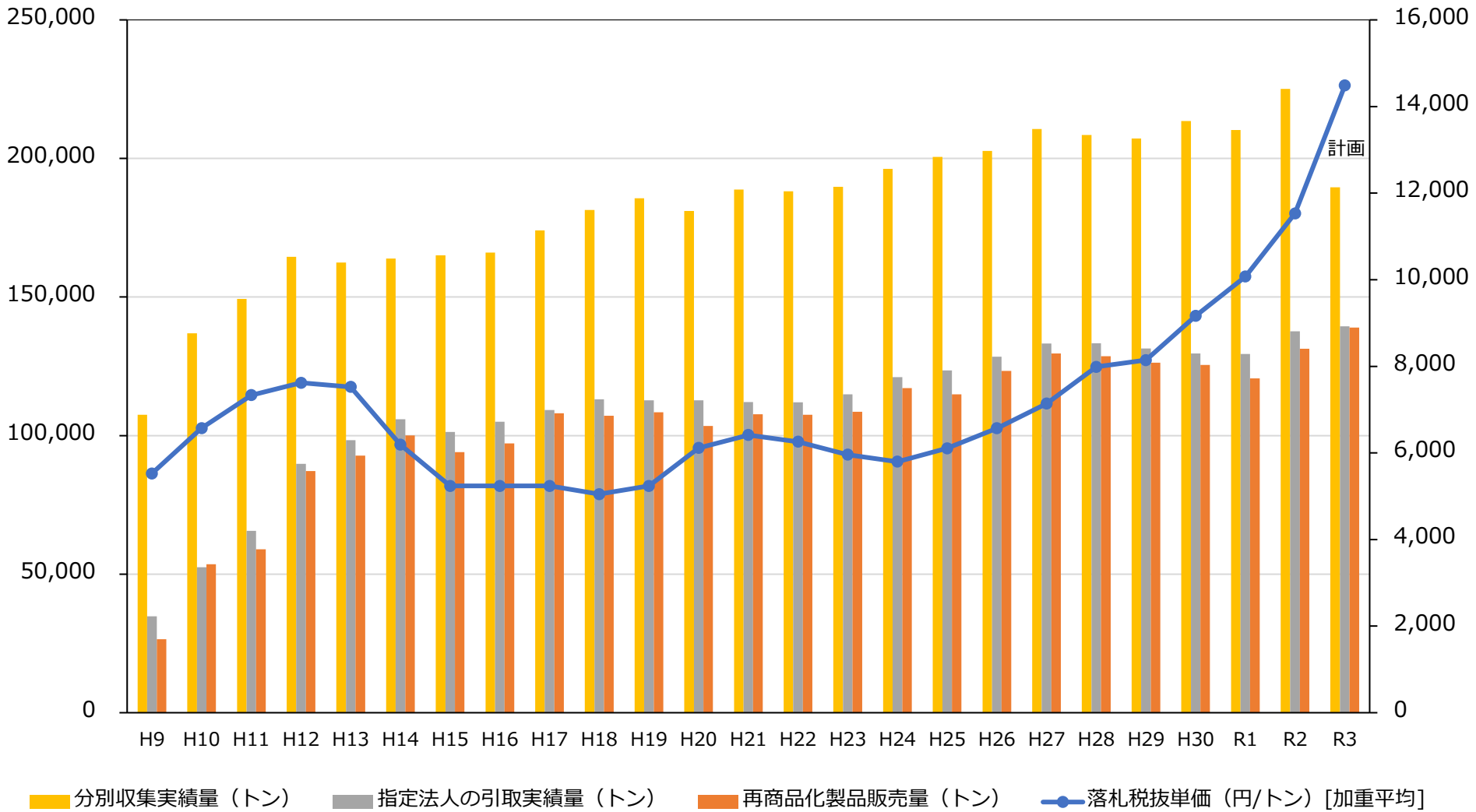


※ R3年度の分別収集実績量は計画量。

# その他の色のガラス製容器

落札税抜単価 (円/トン)

収集実績量等 (トン)

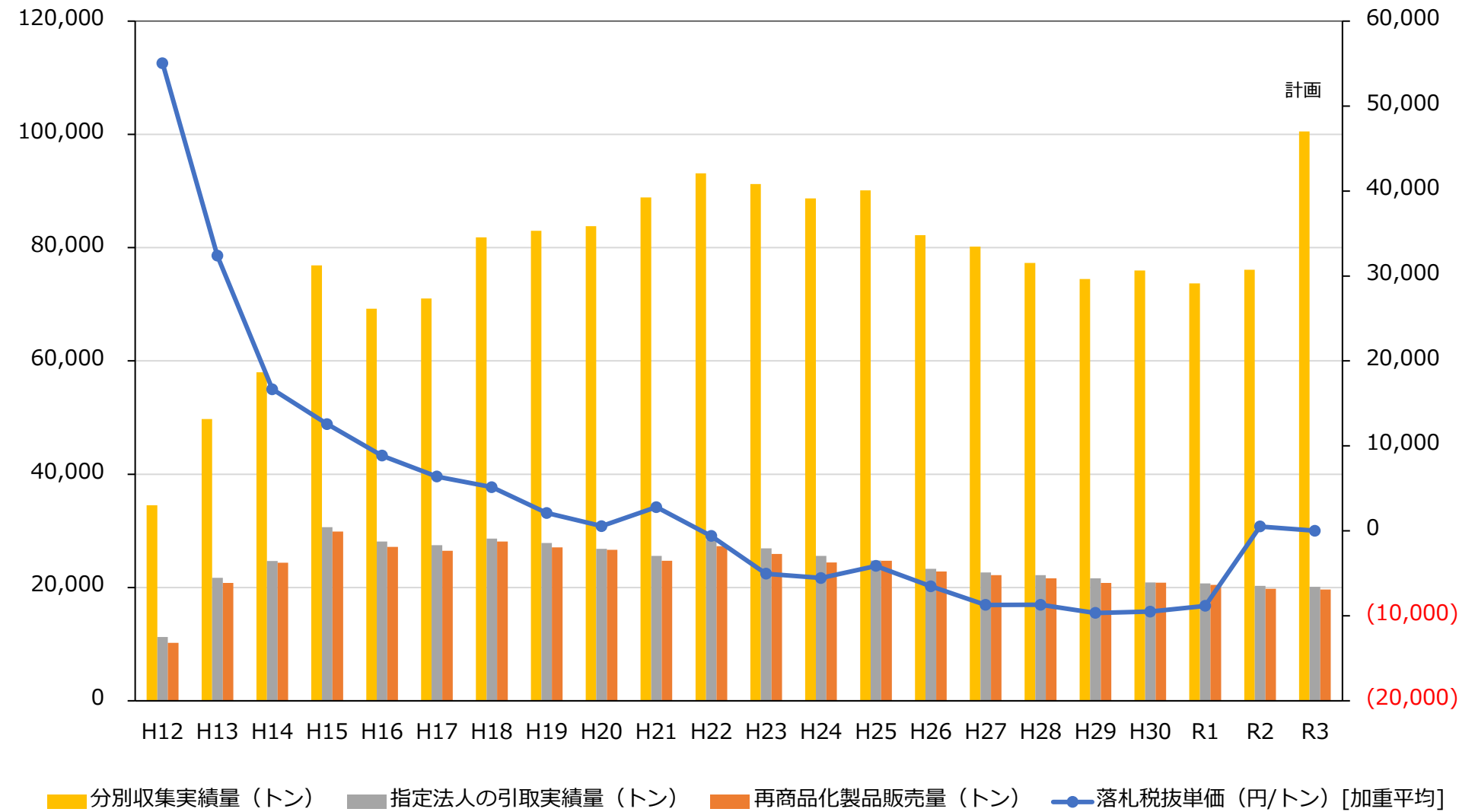


※R3年度の分別収集実績量は計画量。

# 紙製容器包装

収集実績量等 (トン)

落札税抜単価 (円/トン)

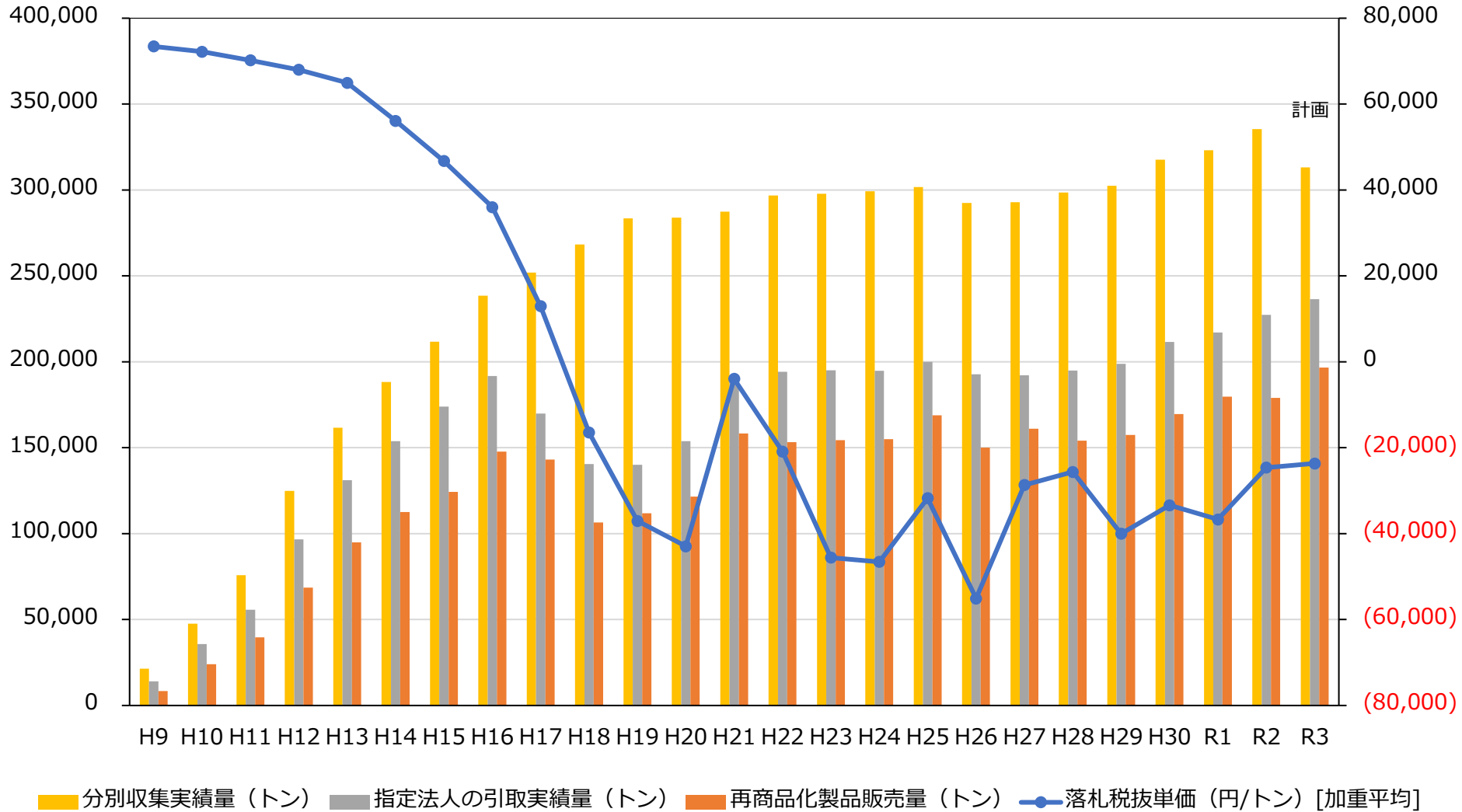


※R3年度の分別収集実績量は計画量。

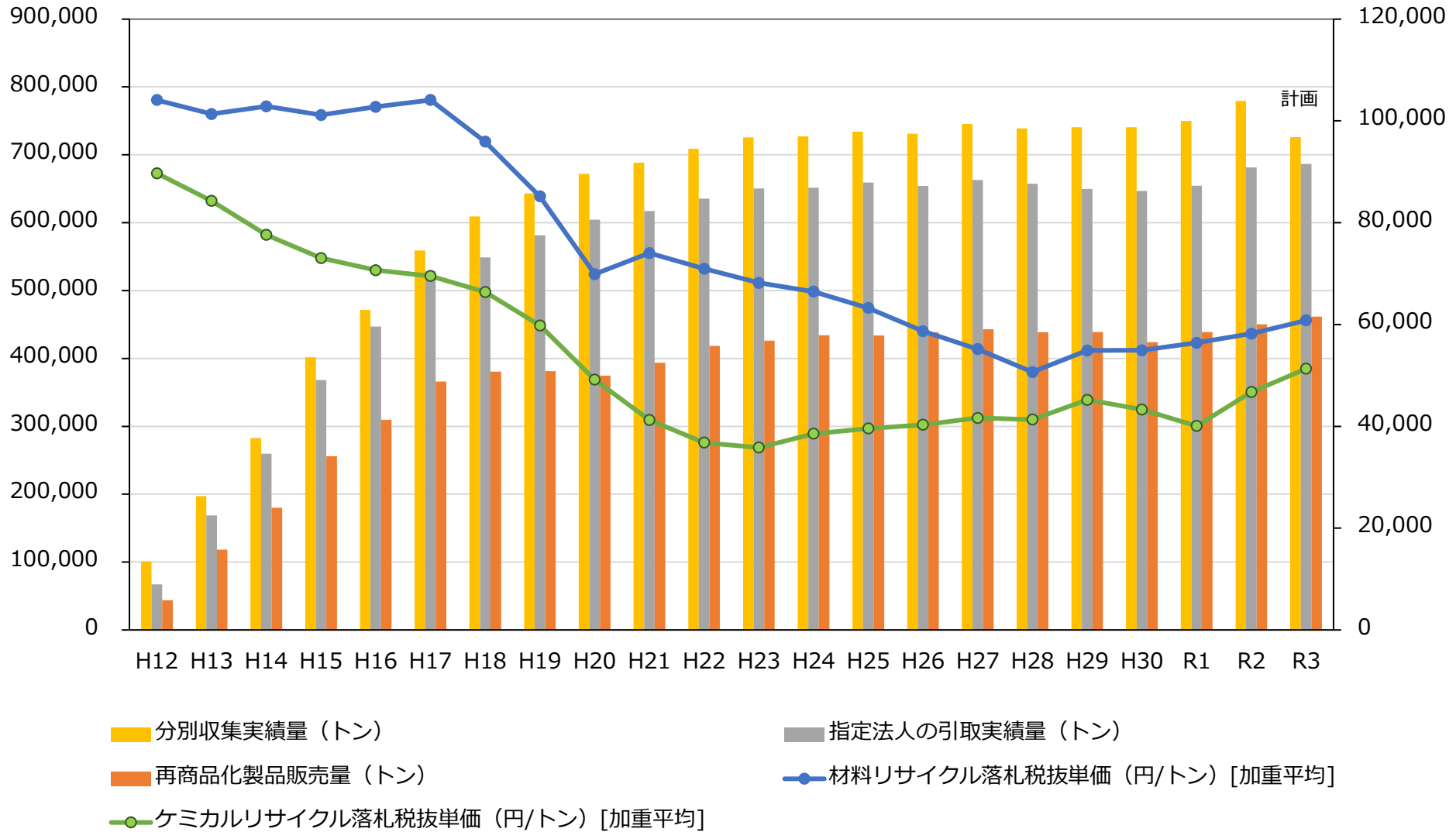
# ペットボトル

収集実績量等 (トン)

落札税抜単価 (円/トン)



※R3年度の分別収集実績量は計画量。

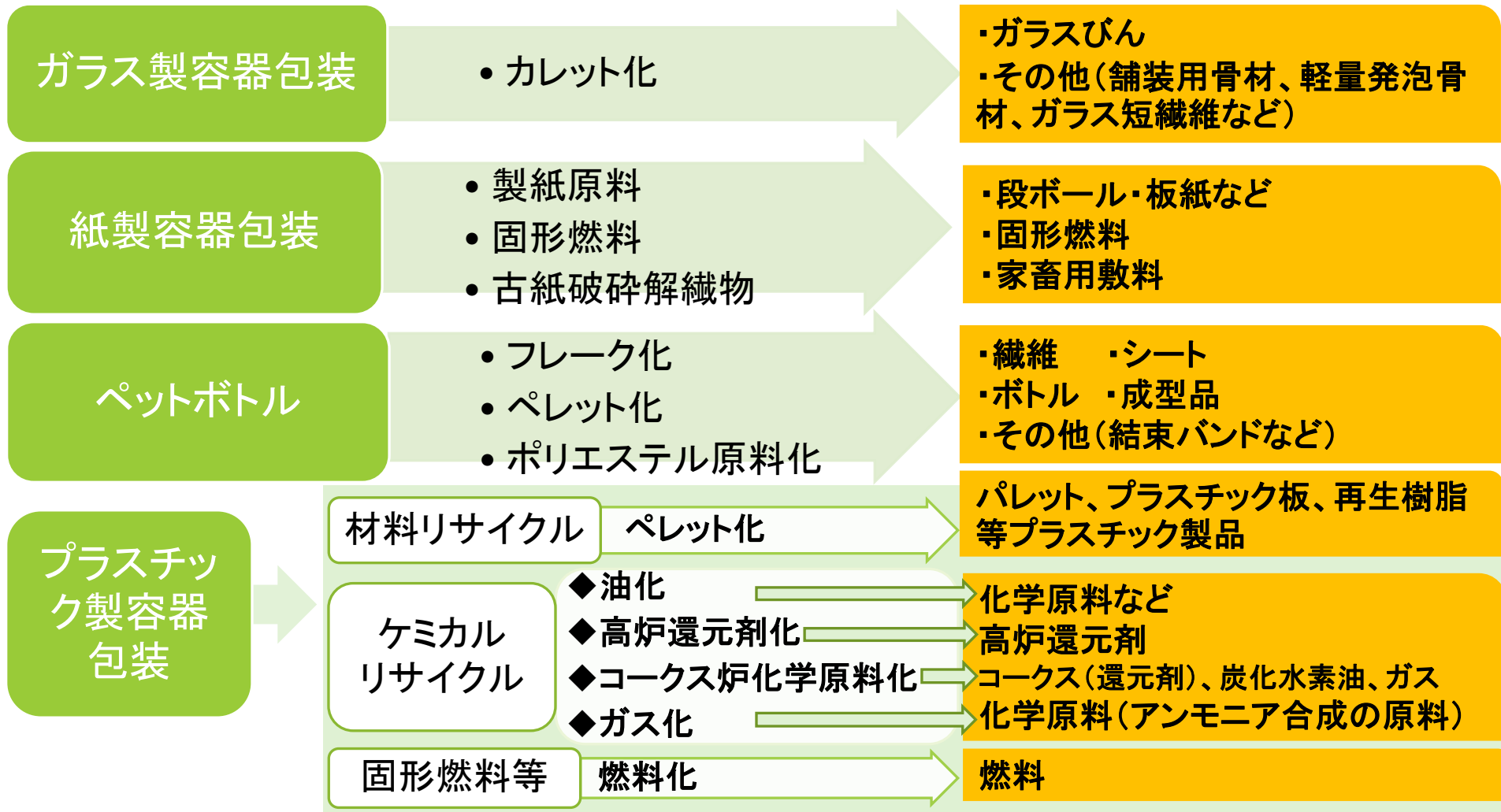


※R3年度の分別収集実績量は計画量。

### 3 容器包装廃棄物の再商品化

容器包装廃棄物の再商品化については、以下のとおり素材の特性に応じたりサイクルを行っている。

#### 3-1 容器包装廃棄物の再商品化の方法



## 3-2 種類別再商品化製品紹介

### ガラス製容器 再商品化製品

#### 再商品化製品

「カレット」は、ガラスびんを原料用に細かく砕いたもので、リサイクル製品の原材料等（再商品化製品）の100%を占める。「カレット化」はラベルや異物を取り除いて色分別したカレットの状態にするガラスびんのリサイクル手法である。

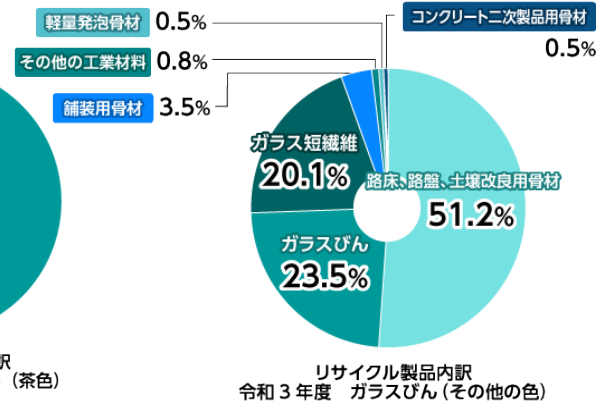
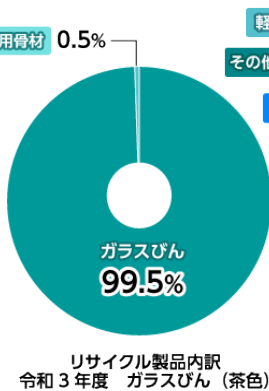
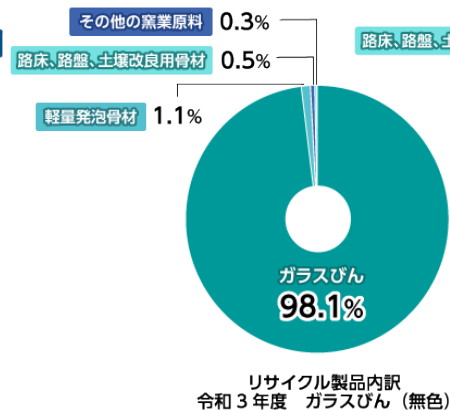
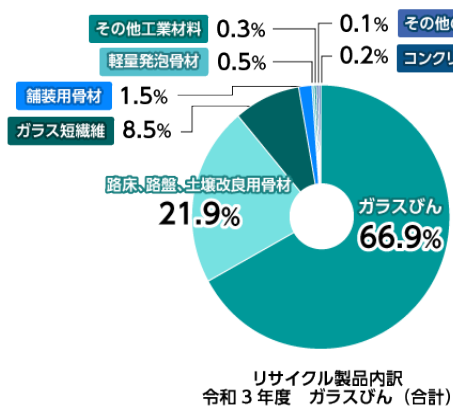
カレット



令和3年度 カレット（合計）  
（R3年4月よりR4年6月までの販売実績）



#### 再商品化製品利用製品



（R3年4月よりR4年6月までの販売実績）

ガラスびん



路床、路盤、土壌改良用骨材（住宅の基礎等）



ガラス短繊維（断熱材等）





# 紙製容器包装 再商品化製品

## 古紙破碎解織物家（畜用敷料）

吸水性や通気性に優れていることから、家畜用敷料（敷きわら）として利用される。



家畜用敷料（敷きわら）



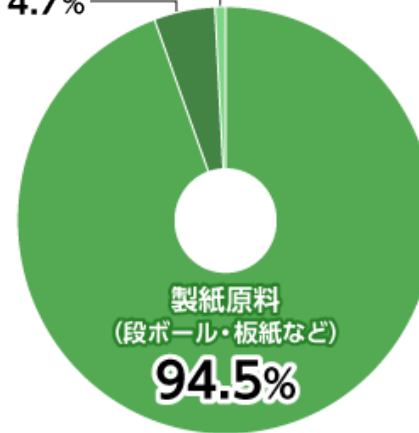
家畜用敷料の利用例

## 固形燃料

紙製容器包装からつくられる固形燃料は、RPFとフラフである。両燃料については、古紙と廃プラスチックを原料とした固形燃料で、石炭の代替材料として主に製紙メーカー、セメント会社等で利用されている。

古紙破碎解織物（家畜用敷料） 0.8%

固形燃料 4.7%



原材料等内訳  
令和3年度

（R3年4月よりR4年6月までの販売実績）

## 製紙原料

紙製容器包装を原料としてつくられる紙は、板紙、段ボールの中芯などであり、製紙メーカーの板紙工場等で使用される。



段ボールの中芯



RPF

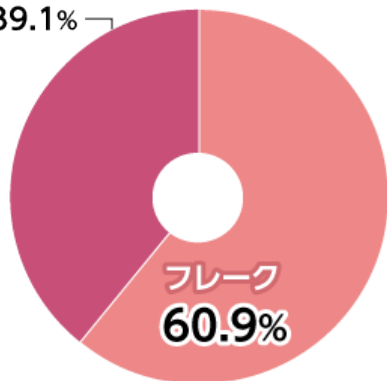


フラフ

# ペットボトル 再商品化製品

## 再商品化製品

ペレット 39.1%



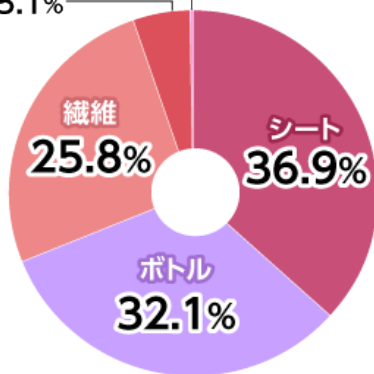
原材料等内訳  
令和2年度 PET ボトル



## 再商品化製品利用製品

その他(結束バンド等) 0.1%

成形品 5.1%



リサイクル製品内訳  
令和2年度 PET ボトル

### 繊維

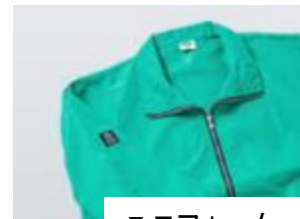
自動車関連材料、  
インテリア・寝装  
寝具、衣類、土  
木・建築資材など



自動車の天井・床等  
の内装材や、吸音材



カーペット



ユニフォーム

### シート

卵パック、食品  
用トレイ、食品用  
の中仕切り、ブリ  
スターパックなど



卵パック



食品用の中仕切り



ブリスターパック

### ボトル



飲料用ボトル



洗剤用ボトル

### 成形品



排水ます蓋



回収ボックス

### その他

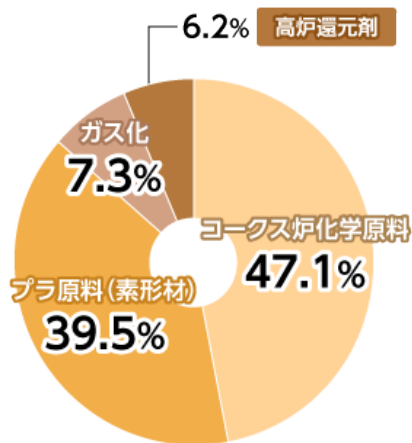
結束バンド、  
ごみ袋など



結束バンド

# プラスチック製容器包装 再商品化製品

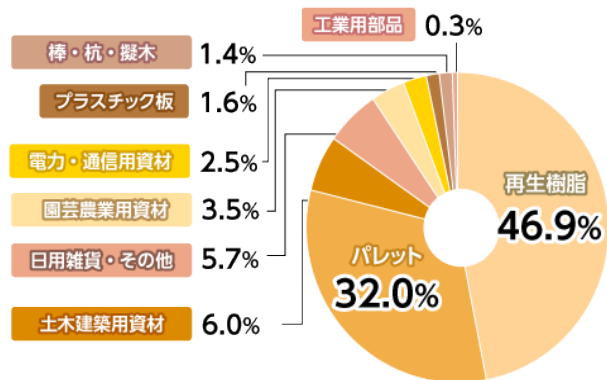
## 再商品化製品



原材料等内訳  
令和3年度

R3年4月よりR4年6月までの販売実績

## 再商品化製品利用製品



材料リサイクル製品内訳  
令和3年度



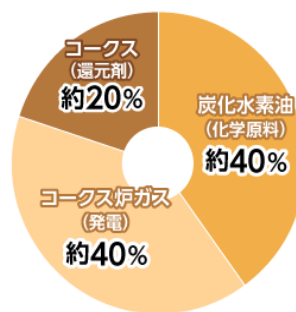
材料リサイクル(プラ素形材)



ケミカルリサイクル  
(写真:コークス炉化学原料)



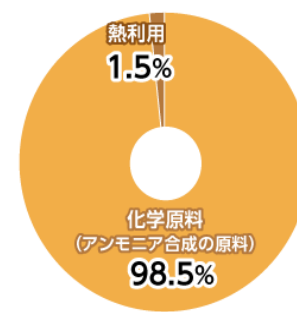
高炉還元剤化



コークス炉化学原料化

内訳はプラスチック循環利用協会 HP より

ケミカルリサイクル製品内訳  
令和3年度



ガス化

# プラスチック製容器包装 再商品化製品

## プラスチック製容器包装 材料リサイクル製品 (再商品化製品利用製品) 写真



再生樹



パレット



土木建築用資材  
(土台ブロック)



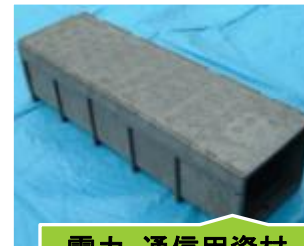
土木建築用資材  
(車止め使用例)



日用雑貨  
(ごみ袋)



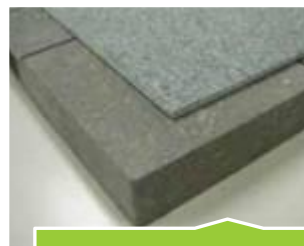
園芸農業用資材  
(プランター)



電力・通信用資材  
(ケーブルトラフ)



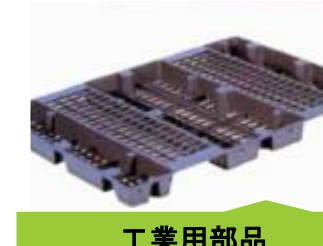
プラスチック板



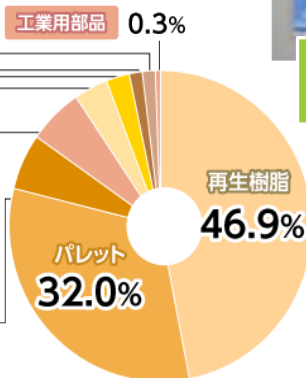
OAフロアー材



棒・杭・擬木  
(標識杭)



工業用部品  
(ダンネージストッパー)



材料リサイクル製品内訳  
令和3年度

※令和3年4月より令和4年6月までの販売実績

## 4 特定事業者に関する状況

### 4-1 再商品化義務履行事業者数(全国計)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
ガラスびん合計	4,372	4,339	4,270	4,239	4,187	4,109	4,031	3,979	3,916	3,788	4,521
PETボトル	1,099	1,158	1,183	1,484	1,270	1,299	1,322	1,360	1,428	1,437	1,838
紙	54,545	48,748	47,409	50,349	49,666	51,348	50,184	54,193	53,832	54,098	55,502
プラスチック	64,543	66,183	64,674	70,449	71,078	72,622	71,658	71,940	72,031	72,533	73,832
申込総件数	67,859	69,368	67,701	73,382	73,902	75,361	74,285	74,445	74,295	74,693	75,879
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
ガラスびん合計	3,601	3,532	3,479	3,418	3,362	3,285	3,247	3,198	3,137	3,059	2,950
PETボトル	1,401	1,376	1,371	1,362	1,340	1,313	1,301	1,275	1,259	1,248	1,184
紙	55,964	57,779	60,107	63,241	65,041	66,049	66,365	66,220	68,026	67,226	66,627
プラスチック	73,876	74,292	76,366	78,521	79,760	80,737	79,879	79,819	80,766	79,617	78,917
申込総件数	76,137	76,515	78,140	80,676	81,436	82,367	81,482	81,878	82,272	81,054	80,297

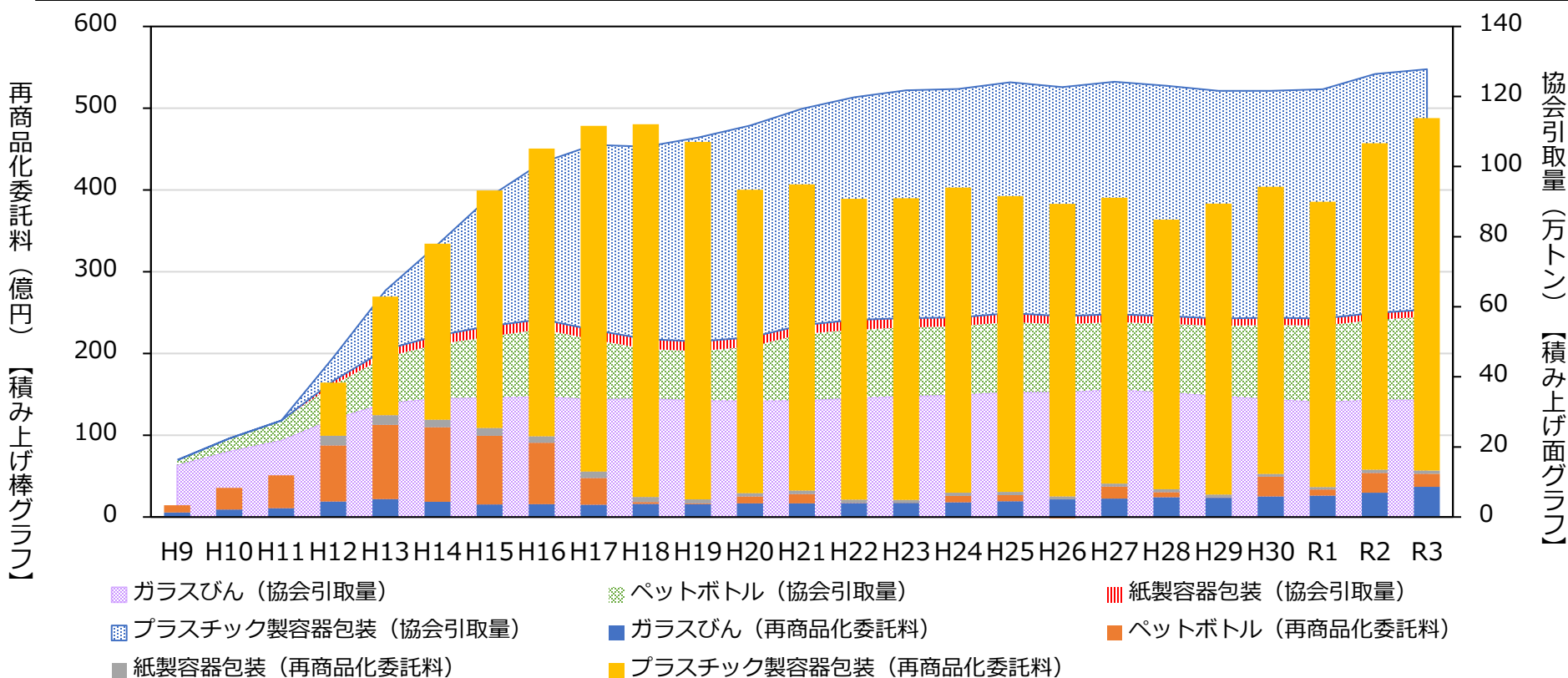
※再商品化義務履行者数は、1社で複数の素材で申込をしている場合もあるため、各欄の単純合計にはならない。

※上記の数値は、新聞販売所やコンビニエンスストア等の一括代理人契約の場合における内訳の個別店舗数を全てカウントした数値。

## 4-2 特定事業者が負担する委託額の推移

特定事業者が負担する再商品化委託料（積み上げ棒グラフ）について、ガラスびんは法完全施行以降、増加傾向であるが、ペットボトル及び紙製容器包装は平成13年度をピークに減少傾向にある。プラスチック製容器包装は平成18年度まで増加しており、平成19年度から横ばいで推移していたが令和2年度から再び増加に転じている。

指定法人引取量（積み上げ面グラフ）について、ガラスびん、紙製容器包装は減少傾向であるが、ペットボトル、プラスチック製容器包装は近年増加傾向である。

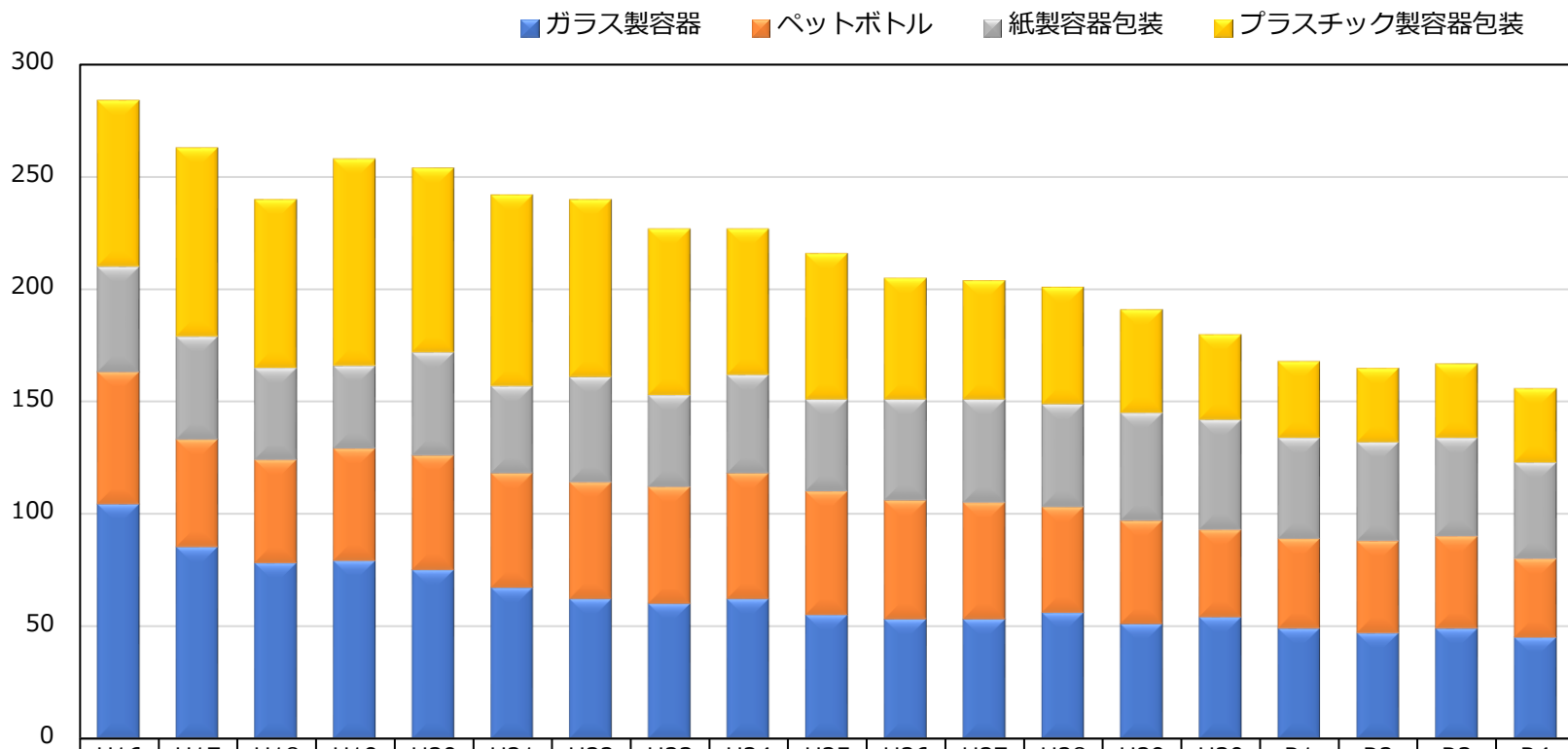


### 4-3 再商品化委託単価(単位:円/トン)

(単位:円/トン、税抜)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
無色のガラス製容器	2,700	2,500	3,800	3,700	3,200	4,000	3,700	4,000	3,800	3,900
茶色のガラス製容器	4,600	4,600	4,600	5,000	4,700	5,300	5,100	5,400	5,100	5,300
その他の色のガラス製容器	7,700	6,100	6,800	5,600	6,400	8,800	9,100	8,500	7,800	7,700
ペットボトル	45,800	29,800	800	1,800	1,800	1,700	4,000	3,500	3,300	4,300
紙製容器包装	18,300	12,000	19,500	12,000	14,800	12,700	15,300	12,400	11,500	11,500
プラスチック製容器包装	69,600	76,200	84,900	81,800	71,600	62,600	50,700	49,600	46,700	45,800
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
無色のガラス製容器	4,100	4,400	4,200	4,100	4,000	4,300	4,300	4,600	5,100	
茶色のガラス製容器	5,700	5,800	5,500	5,700	5,600	6,000	5,900	6,400	7,200	
その他の色のガラス製容器	8,100	9,400	9,700	9,900	10,300	11,600	13,700	17,500	23,600	
ペットボトル	1,400	3,300	2,300	2,000	9,200	2,000	3,200	4,500	5,000	
紙製容器包装	13,000	13,000	12,000	13,000	15,000	12,000	13,000	16,000	14,000	
プラスチック製容器包装	52,800	47,000	45,000	45,000	49,000	46,000	49,000	51,000	53,000	

## 4-4 指定法人が再商品化を委託した再生処理事業者数



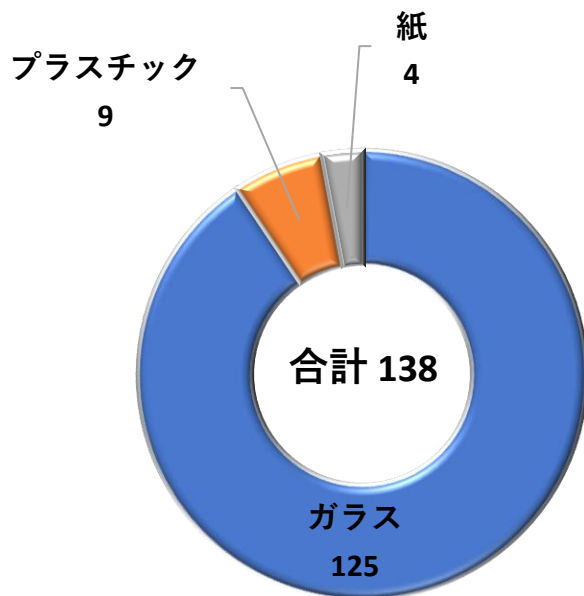
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
■ プラスチック製容器包装	74	84	75	92	82	85	79	74	65	65	54	53	52	46	38	34	33	33	33
■ 紙製容器包装	47	46	41	37	46	39	47	41	44	41	45	46	46	48	49	45	44	44	43
■ ペットボトル	59	48	46	50	51	51	52	52	56	55	53	52	47	46	39	40	41	41	35
■ ガラス製容器	104	85	78	79	75	67	62	60	62	55	53	53	56	51	54	49	47	49	45



## 4-5 特定容器の自主回収認定状況

認定事業者数(社)

50



素材別内訳(件数)

### <素材毎の用途の例>

#### ガラス

- 牛乳用びん
- 炭酸飲料用びん
- 清涼飲料用びん
- 清酒用びん
- ビール用びん 等

#### プラスチック

- ガラスびん用キャップ
- 鶏卵パック 等

#### 紙

- 鶏卵パック 等

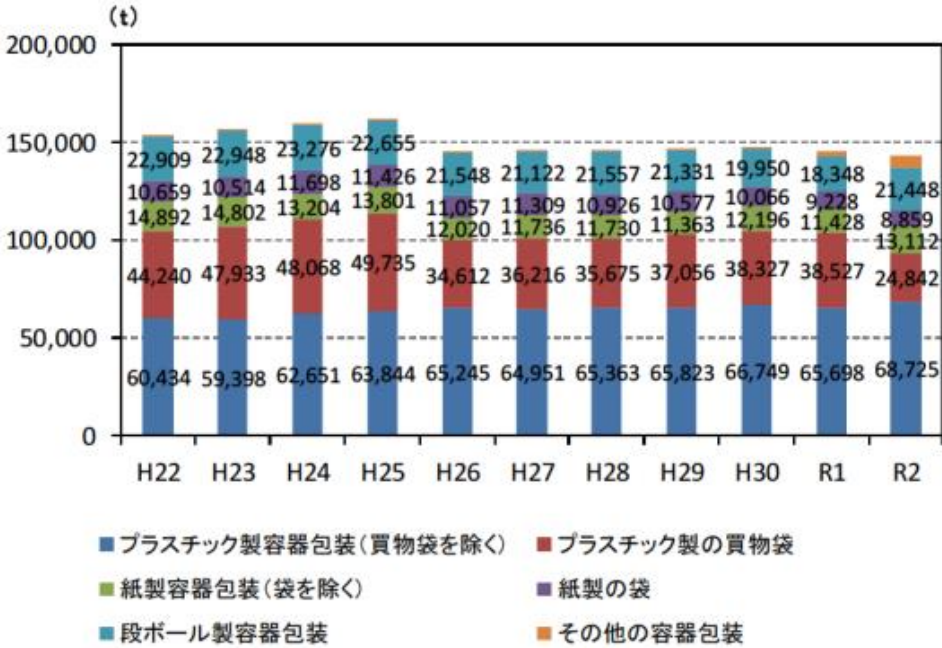
※令和4年4月時点

# 5 改正容器包装リサイクル法の各種取組状況

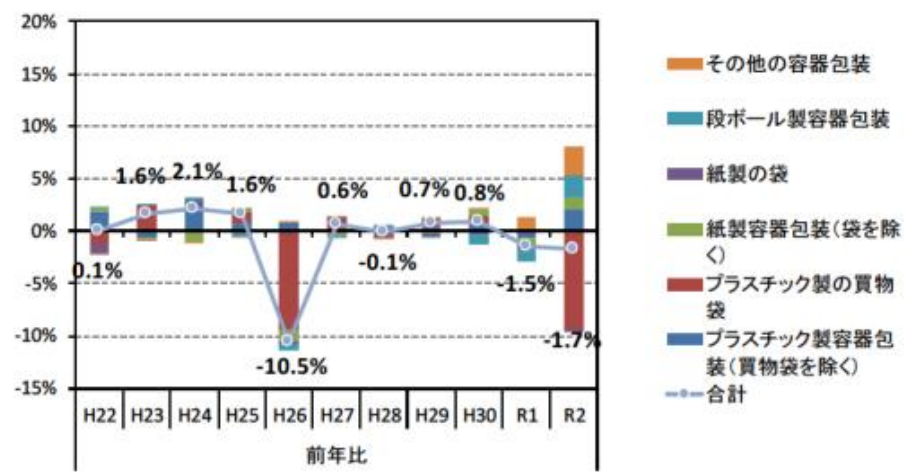
## 5-1 小売業事業者に係る容器包装排出抑制促進措置

定期報告連続提出事業者の、過去10年間の容器包装使用量の推移について分析したところ、令和2年度にはプラスチック製の買物袋の使用量が減少しており、買物袋を除く容器包装の使用量は増加している。この要因は、プラスチック製買物袋の有料化制度の開始によるレジ袋の削減や、新型コロナウイルス感染症の影響によるテイクアウトやデリバリーサービスの利用機会の増加が考えられる。

◆ 素材別容器包装を用いた量の推移



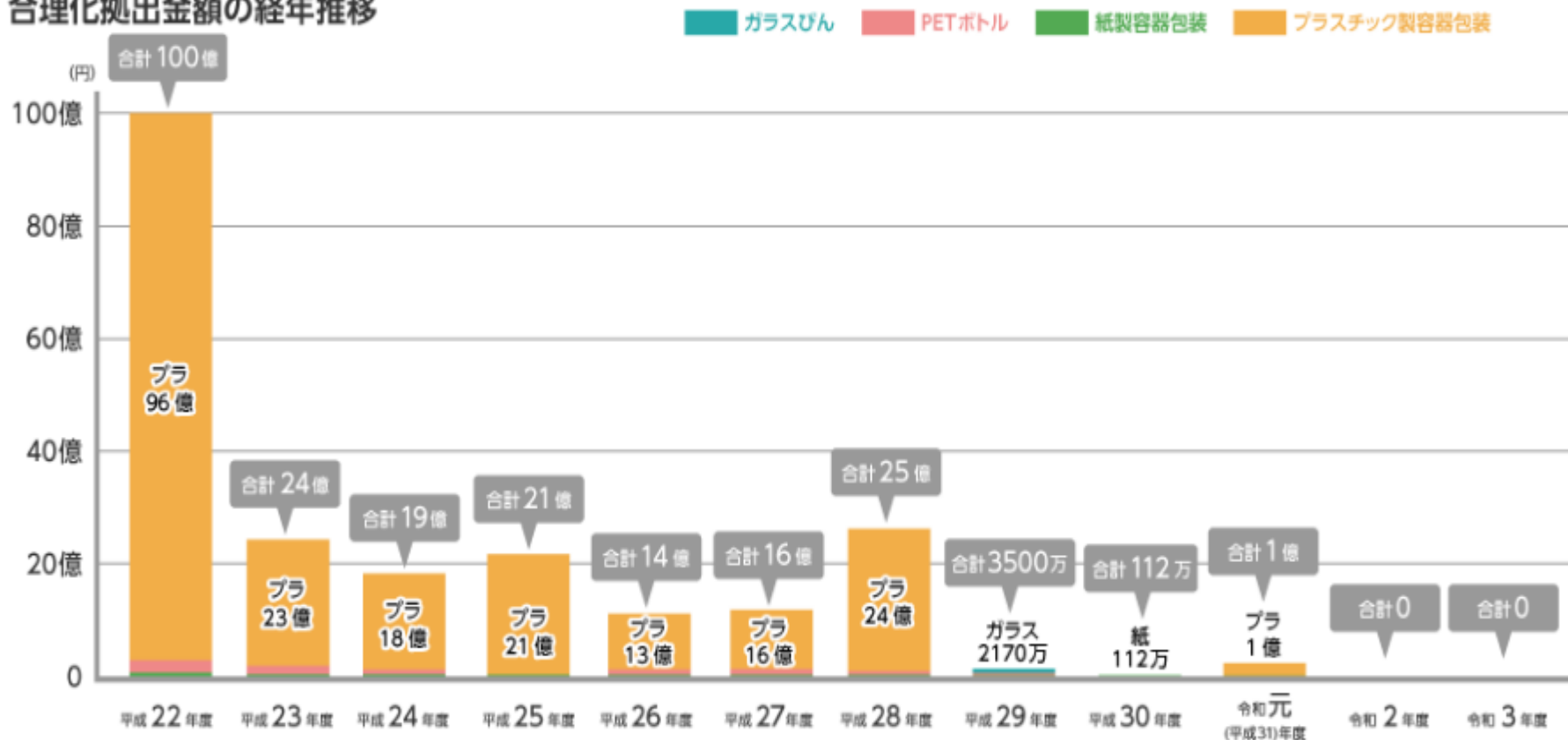
◆ 容器包装を用いた量の推移 (寄与度分解)



## 5-2 リサイクルの合理化に貢献した市町村への資金拠出制度の状況

合理化拠出金の拠出総額は、制度開始当初100億円程度あったが、その後、合理化拠出金の基準年度の変更等により平成23年度以降は大きく減少した。また、令和2年度及び令和3年度では、実際の再商品化費用総額が「想定額」を上回ったことにより拠出金はなかった。

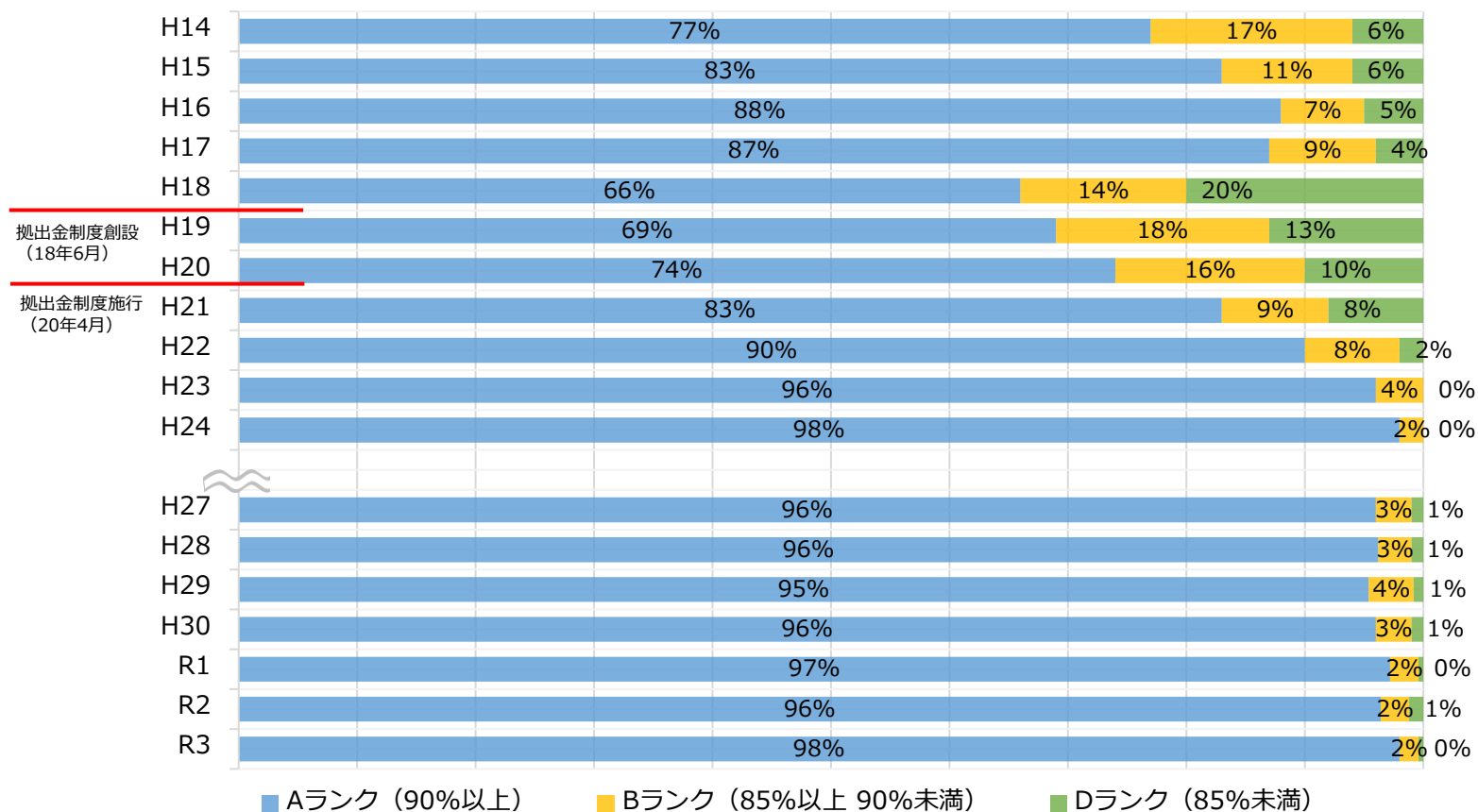
### 合理化拠出金額の経年推移



# 拠出金制度導入後のプラスチック製容器包装ベール品質(容器包装比率)の推移

プラスチック製容器包装ベールの品質評価項目の1つに「容器包装比率」があり、サンプルベール重量に対し、分別基準適合物である容器包装プラスチックの重量割合(容器包装比率)が90%以上であればAランク、85%以上90%未満はBランク、85%未満はDランクとなる。

拠出金制度導入後、Aランクのベール品質の割合は増加し、近年では全体の95%以上を占めている。



### 5-3 プラスチック製買い物袋の有料化について

令和2年7月1日より、全国でプラスチック製買い物袋の有料化制度が開始された。環境省によるレジ袋使用状況に関するWEB調査の結果「1週間、レジ袋を使わない人」は、令和2年3月の3割から令和2年11月の7割に増加した。

#### 1週間レジ袋を使用しなかった人の割合

有料化前 (2020年3月)

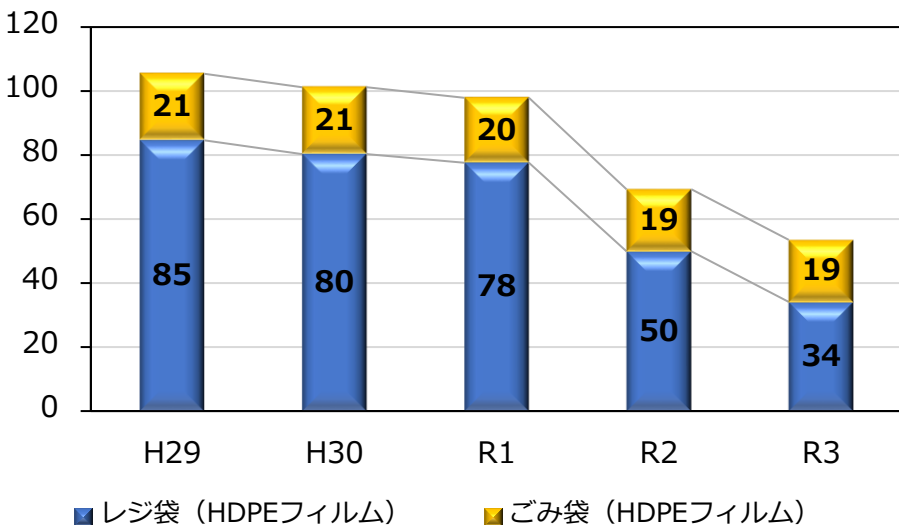
30.4%

有料化後 (2020年11月)

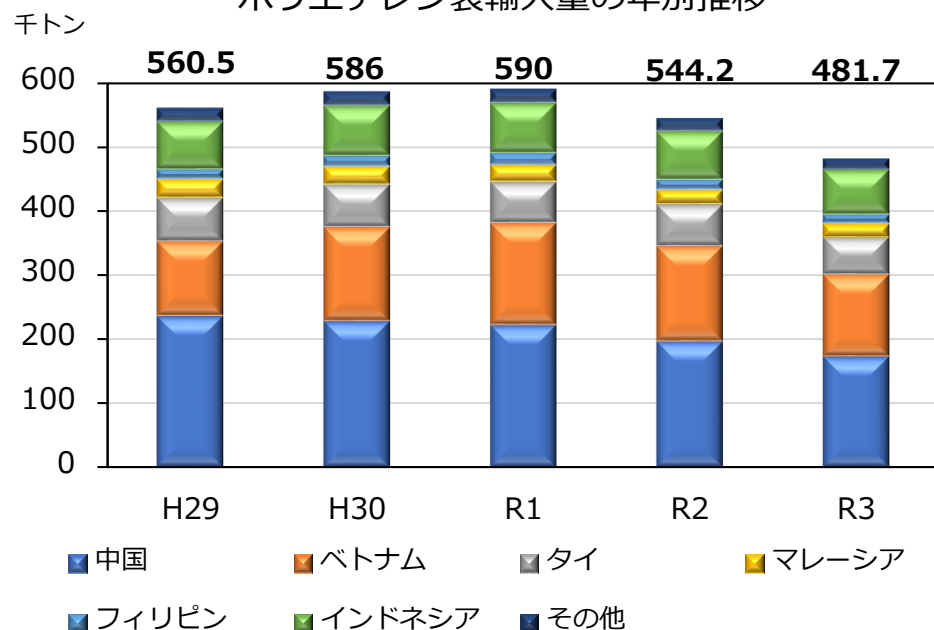
71.9%

出典) 環境省アンケート調査

千トン ポリオレフィンフィルムの年別出荷状況



千トン ポリエチレン袋輸入量の年別推移



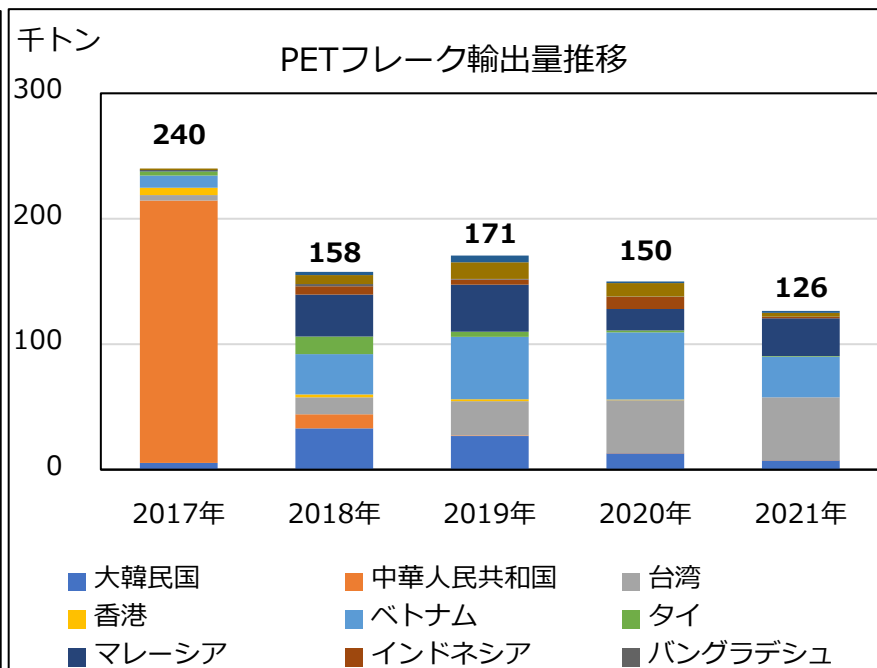
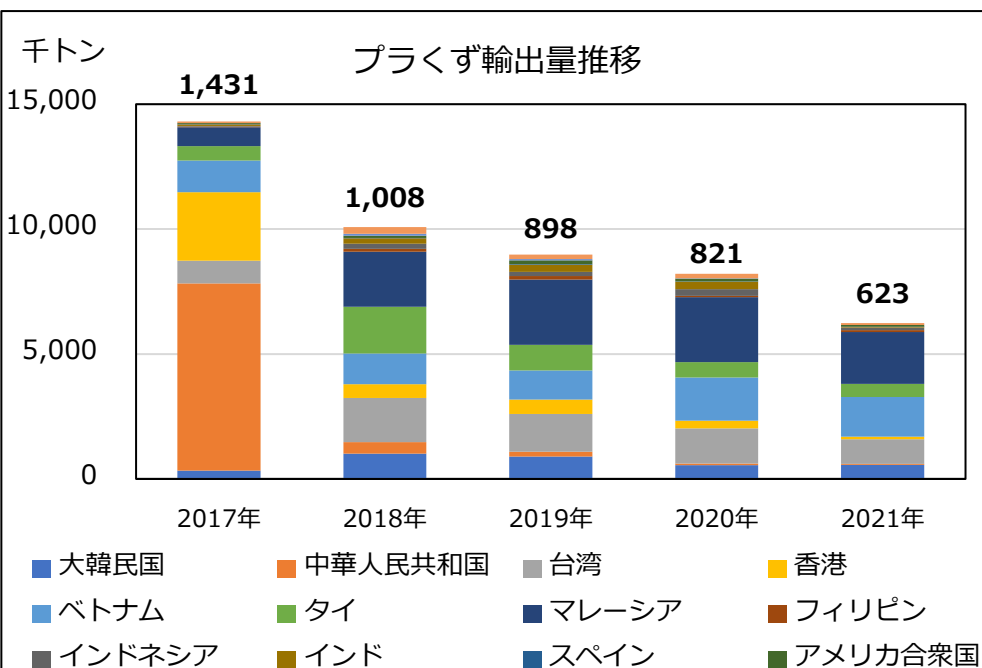
出典：日本ポリオレフィルム工業組合「2017～2021年 ポリオレフィンフィルムの年別出荷状況」の情報を基に経済産業省作成

出典：日本ポリオレフィルム工業組合「ポリエチレン袋輸入量の年別推移(2017年～2021年)」の情報を基に経済産業省作成

## 6 その他関連情報

### 6-1 廃プラスチックの輸入規制

2017年末に中国によるプラスチックくずの輸入規制が強化され、日本から中国への輸出はほとんどなくなった。それ以後、東南アジア諸国への輸出が増えたが、東南アジア諸国においても輸入規制措置がとられたことにより、これらの国への輸出も減少した。また、2019年に開催されたバーゼル条約締約国会議（COP14）で採択された廃プラスチックの新規規制追加に伴い、バーゼル法の省令改正を行い、2021年1月1日からリサイクルに適さない汚れた廃プラスチックの輸出入が規制対象に追加され、輸出はさらに減少した。



## 6-2 環境配慮設計の促進

各素材ではリデュース目標を設定し、環境配慮設計の考え方の普及、軽量化や薄肉化、無駄のない形状への変更、コンパクト化など、容器包装リデュースの取り組みを展開している。また、各素材をリサイクルしやすくするために、ガイドライン等も策定している。

表 リデュースの数値目標及び実績

素材	指標	2025年度目標 (2004年度比)	リデュースの実績				
			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
ガラスびん	1本/1缶当たり平均重量の軽量化率	1.5%以上	1.5%	2.2%	1.2%	1.7%	2.2%
PETボトル		25%以上	23.0%	23.9%	23.6%	24.8%	25.3%
スチール缶		8%以上	7.7%	7.8%	7.3%	8.1%	8.6%
アルミ缶		6%以上	5.1%	5.3%	5.3%	5.4%	5.8%
飲料用紙容器	1m <sup>2</sup> 当たり平均重量の軽量化率	3%以上※	2.5%	2.9%	2.9%	2.9%	2.5%
段ボール		6.5%以上	5.2%	5.1%	5.1%	5.5%	6.1%
紙製容器包装	リデュース率	15%以上	11.5%	11.2%	10.7%	13.1%	23.5%
プラスチック容器包装		22%以上	15.3%	15.9%	17.0%	17.6%	19.2%

※牛乳用500mlサイズカートンを対象とする。

出典：3R推進団体連絡会容器包装3Rのための自主行動計画2025

### ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装

- 自主設計ガイドライン

### プラスチック容器包装

- プラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針 改訂版
- プラスチック製容器包装の環境配慮設計・ガイドライン